

■児童・生徒の学力の状況

○「全国学力・学習状況調査」の結果から、学習の必要性を感じている生徒が多い一方で、長時間スマートフォンなどによるSNSや動画視聴が行われ、学習時間が減少している。
 ○国語・数学・理科のどの項目においても平均正答率が低く、学習への苦手意識が見られる。
 ○定期考査等の結果から、基礎的・基本的な内容が定着している生徒と不十分な生徒の二極化の傾向が見られる。また、個別に支援が必要な生徒も多い。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

○教科書などからインプットしたことをもとに思考し、わかったことや考えたことをまとめ、他者に伝える力を育成する必要がある。
 ○授業においてタブレット端末を効果的に使用することが多くなった一方で、発表などのアウトプットする場面が少ない。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

○板橋区授業スタンダード及び板橋区授業スタンダードSの実施。「自力解決」「集団解決」を取り入れ、自主的・自発的な学習態度の育成を図る。
 ○言語活動(読み解く力・書く力)を通して課題解決能力を高め、思考力・判断力・表現力の向上を図る。
 ○個に応じた指導の充実。少人数指導(数学)の実施とICT機器(chromebook)の活用を推進する。
 ○各種学力調査の分析と検証。学期ごとの「学力向上推進週間」の取組みを推進する。
 ○学習の定着を目的とした家庭学習習慣の定着を家庭と連携して取り組む。
 ○各種検定の受検促進。学校支援地域本部と連携を十分に生かす。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底及び 板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 読み解く力の育成	視点3 総合的な学習の時間との連携
○授業の導入で学習のねらいを明確に示し、自力解決、集団解決、まとめ・振り返りの授業展開を徹底する。 ○教員が単元等を選択し、自己選択・自己決定・自己調整を取り入れて学ぶ場面を設定する。	○教科書の記述内容を言い換えさせたり、定期考査で記述式問題を出題したりする。 ○授業の終末に、学習した用語を正しく活用して振り返りを行う。	○環境教育を柱として、教科横断的なSTEAM教育を取り入れて学習する。 ○SDGzの視点を踏まえ、生徒が主体的に課題を発見し、解決に向けた手だてを学ぶ授業を実践する。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の充実と活用の推進 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○iCS委員会に協力を求め、「これからの板橋」の実現に向けて、第7・8学年は地域清掃や職場体験の取組を通して、第9学年はこれまでに培った力を生かして個人のテーマを追究し、郷土愛を育成する。	○総合的な学習の時間における環境教育やSDGsの教育を通して、各教科等で学んだことをもとに実社会や実生活から課題を見いだす。その上で、探究的な学習を充実させるため、自分で課題や目標を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ、表現する力を育成する。	○個別最適化に配慮した家庭学習に取り組めるよう、また非常時にやむを得ず登校できない生徒に対してもオンラインを活用した課題を配信し、提出できるようにする。 ○学習者用デジタル教科書等を活用し整理・分析した情報を、プレゼンテーションソフト等にまとめ、互いの考えを共有し、表現する力を育成する。